



広報

しまき

発行/島牧村・編集/企画振興係・印刷/岩内町 福島印刷所

世帯と人口

世帯	962戸
人口	3,993人
男	2,001人
女	1,992人
(昭46.10.31現在)	
住民基本台帳人口	

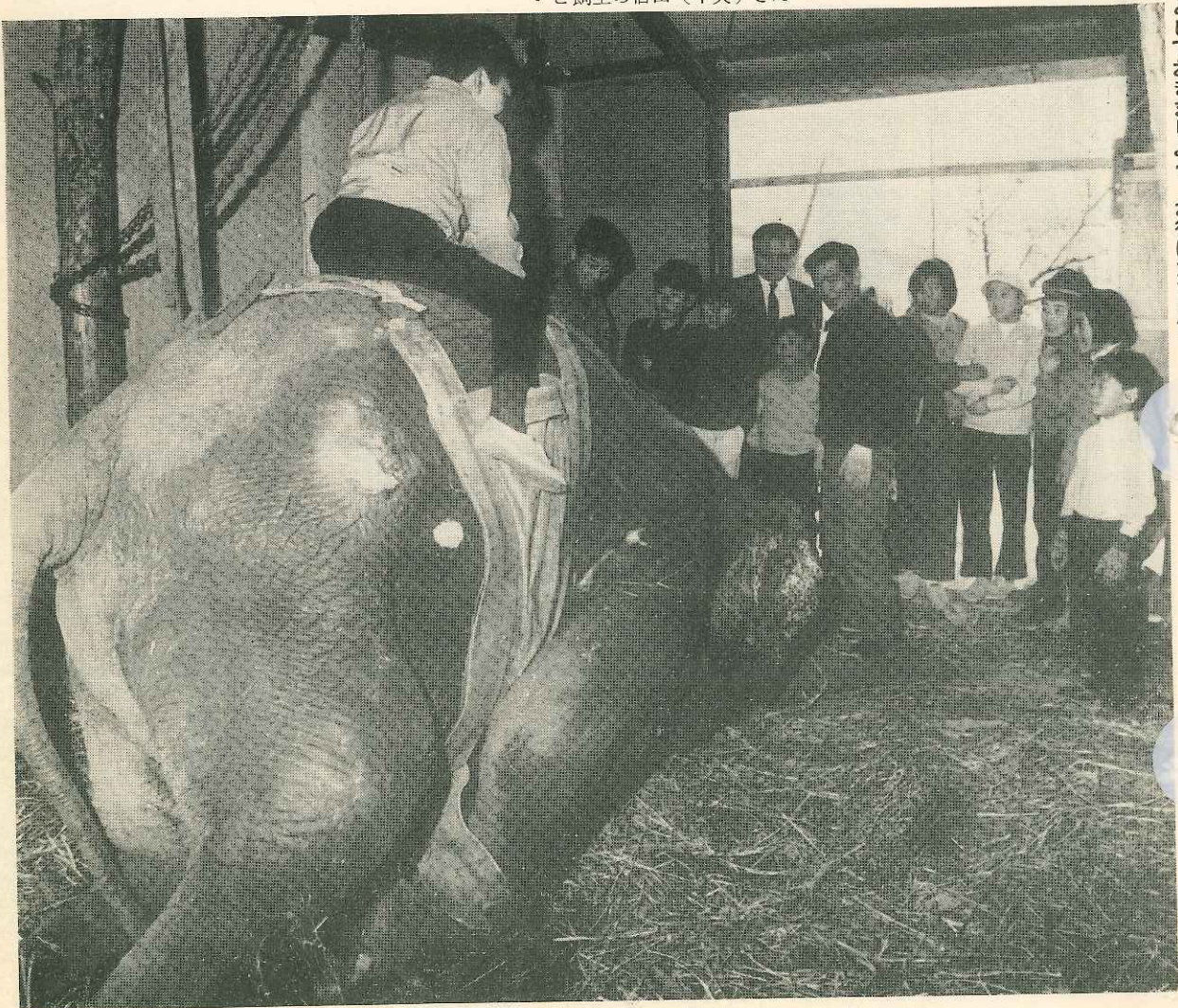
がんばれ花子、早くよくなって!

足をケガし、温泉で闘病生活を送っている子どもたちのクアアイドル、象の花子。

(6~7ページをごらんください。)

(花子の背にのせてもらって、おおよろこびの子供たちと飼主の信田(中央)さん)

12 1971
月号 No. 72



「象」は大切にしておきましょう。お役にたちます。



▲浴そうつきの立派な「花子のおやど」



▲永豊の金子君（島牧中3年、金子敬一さんの3男）は、土曜、日曜はかかさず「花子」の世話をしております。いまでは「花子」もすっかりなつきましたが、なんと「花子」が1日に食べる量はパン90K、果物50~60K、ジャガイモ100K、タマゴ90個、雑こく90Kなどとあって、金子君もあせだくです。



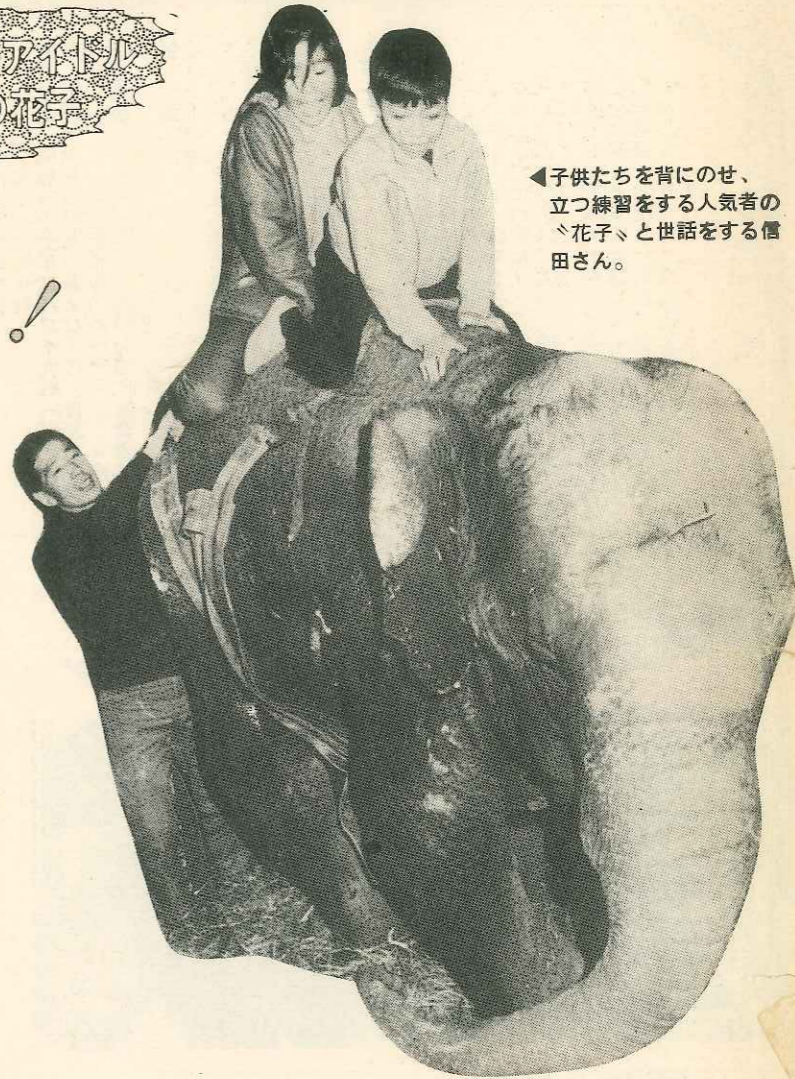
足をぐがし温泉
連日見舞客でいっぱい

新聞やテレビなどですでに承知のとおり、ゾウの花子は、現在、宮内温泉のすぐ前に建てられた浴そうつきの「花子のおやど」で、みんなの善意に見守られながら島牧入りしてから約一カ月、快適な湯治生活を送っており、徐々に快方にむかっています。
「花子」の日課は、朝七時から健康診断、十時に朝食をとり夕方の四時ごろまで歩く練習をして、約百三十キロのエサを食べて寝るそうです。
飼主の信田さんの話によりますと「ゾウはなかなか神経質な動物で、到着した日は家にもなじまず、もちろんお湯も使わなかったが、いまでは長いハナをお湯の中に突きつけ、吸いあげてからだに吹きつける一方、お湯も飲むようになり、目の光り、ひふの色も良く、わずかながらふとりました。ここのお湯は「花子」もすっきり気に入ったようです。信田さんは「動物は足をおって寝たが最後。これは世界に共通した悩みです。しかし、きつとよくしてみせます。そして、島牧海岸の砂浜を元気に歩く日をいまから楽しみにしています。』と。すでに年の瀬もおおしまり、めっきり寒くなった山の湯治場で、きょうも「花子」の全快へと筋に打ち込んでいます。

子どもたちのアイドル
ゾウの花子

がんばれ

「花子、早くよくなって！」

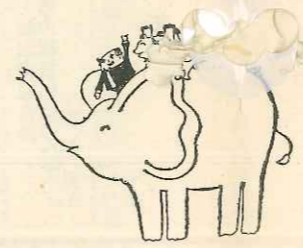


◀子供たちを背にのせ、立つ練習をする人気者の「花子」と世話をする信田さん。

- ◆道民に親しまれているゾウの「花子」が、さる十一月十日宮内温泉入りし、湯治生活を送っています。
- ◆土曜、日曜の宮内温泉には、花子をばげます人たちで朝から大変な人。『花子、早くよくなって』と、くだもの野菜をもって、おとずれる人たち。ちの善意に、花子は徐々に快方にむかっています。

全国の子どものアイドル
ゾウの花子とは

全国の子どものアイドルとして、みんなから親しまれているゾウの花子とは？ここで、ちよっとご紹介してみよう。



このゾウの花子は、昭和三十一年に日本の子供たちに、タイ国のバンコクから贈られたもので、京都動物園に二年、札幌円山動物園で一冬を越し、昭和四十二年から旭川の旭山動物園で越冬中、クル病が悪化、左後足が湾曲するなどして、廃獣になりました。

そして、この廃獣になった花子を札幌市真駒内で剥製（はくせい）業を営んでいた現在の飼主、信田修治郎（六十一才）さんが旭山動物園からゆずりうけ、野性動物の飼育に豊富な経験を生かして、この松の根っこのような後足の曲がった年令六才、重さ二トンもある子象を懸命に育てました。

その間、情報時代の世相をそのままに、花子はマスコミの脚光を浴びて茶の間の人気者になり、全国の子供たちのアイドルになりました。信田さんは、元気に歩行機能を回復した花子を、生れ故郷のタイの自然へ帰してやる発想をいだき、同時に各地の盲学校をめぐって花子による盲人の慰問を計画し、実行しました。びっこの花子に共感するファンは国内外にひろがり、毎日のようにはげましの手紙や善意の資金が送られ、バンコクからは花子入国の声が上がりました。

浜谷村長も「くだもの」のたくさん入ったカゴをプレゼント



花子のまわりに集まる子どもたち



▼連日、くだものなどをもって闘病生活の「花子」を訪れるおばあちゃんや子どもたちで、花子はすっかり人気者。